

# 建設業界の課題集約

## 工事集中回避 仕組み作り インフラ維持の技術習得

### 協会青年部報告書

佐賀県建設業協会青年部（部長・大家良太郎）大義建設社長）が、人手不足など業界が抱える課題や対応を集約した報告書をまとめた。工事の集中を避けるための仕組み作りなど、限られた経営資源を有効活用するための手だてを提言。インフラの維持・補修の重要性が高まる公共事業の今後を見据え、技術習得の必要性も指摘している。



有明海沿岸道路の工事現場。大型の公共工事が続く中、報告書では人手不足などの課題や経営体質の強化のための対応をまとめた。

小城市戸刈町

一昨年末の政権交代後、縮減され続けてきた公共投資が急増するなど業況は一変。技術者の不足や高齢化が課題となる中、佐賀大と連携して業界のあり方を考える「経営未来塾」を6年ぶりに実施。会員事業者のアンケートを基に、若手経営者らが1年をかけて議論を重ねてきた。

県内で建設業に携わる従業員数は3万4千人。50歳以上が半数に上る一方、29歳以下は1割にとどまる。報告書では、公共投資

の縮減で若手技術者が減り、技術継承が困難になっている状況を説明。年度後半に工事が集中するため、「経営効率が悪く、資金低下や資材不足によるコスト高を招く要因になっている」と構造的な課題を指摘した。

資材価格の高騰で、契約時と施工時で単価がかけ離れるケースも多く、対応策として価格変動に応じた設計単価の見直しを提案。予算の繰り越し制度活用などで工事の集中が避けられ、建設コストも低減できるとしている。

一方、1960年から80年代にかけて重点的に整備された公共施設の多くは、建て替えの目安とされる50年を経過。維持補修が社会的な課題となっている。

新設と補修は施工内容が異なるため、官民一体による技術力確保の重要性を強調。防災などの観

## タイム

7月にホテルニューオータニ佐賀総支配人に着任した渡辺徹さん(54)。



「20万人規模の町で、なぜショッピングモールがケイションもグループ屈指で、やれることは山ほどある」。あいさつ回りなどで慌ただつたが、和洋中のレストラン

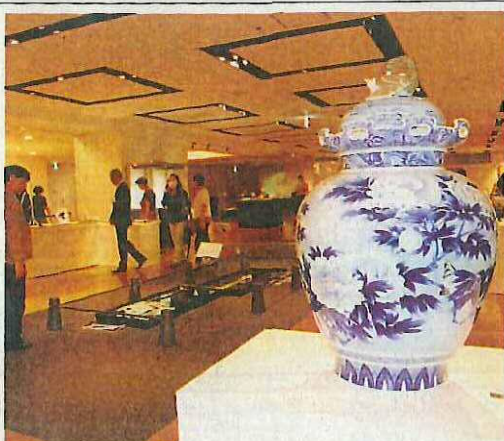
しい日々が続いたが、表情には充実感が漂う。佐賀への赴任は初めてで、「食材一つとっても鮮度が違う。ホテルの口

## 食材、景観で上質サービス

ンを持つ農漁業県にさせた質の「生産者のその名前ニューを花を添内の景観を使ったエも計画近年は、型婚礼施相次ぎ、ない若者苦戦する

## 創業時の大作復

深川製磁 大阪で120周年を迎えたの企画展「永壽深川製磁(西松浦郡有田町) 大阪市の阪急



創業120周年を迎えたの企画展「永壽深川製磁(西松浦郡有田町) 大阪市の阪急

## 中小・零細企業の課題考察

### 「小規模店の特性強みに」

岩崎・静岡県立大教授が講演

指摘した。

さらに、小規模店と大型



店の強みを聞いた消費者アンケートで、両者に共通する回答がな

たことから、「小規模店は大型店の小型版ではない。小さな店にひかれる人に照準を絞り、サービスを展開



岩崎・静岡県立大教授が講演